

# 04

## Silkscreen Story

TO SA CHO

### シルクスクリーン物語

2017年夏に始まったシルクスクリーン事業は、早くも6年目に入りました。おかげさまで、町内の様々な団体さんや、遠方の事業者さんなど多くの方々から製作のご相談をいただけるようになりました。私たちのシルクスクリーン事業に人と地域がつながる物語があるように、ご依頼をいただくお仕事のひ

とつひとつに、人と地域の物語がある。そこには依頼をいただく方々の活動やお仕事があり、生き方がある。それがこの事業を続けてきた地点から見える景色です。2020年7月以降に制作したものを、その物語を中心に紹介します。



case 1

### 豊中市社会福祉協議会 “コロナに負けるな” ポロシャツ

2020.7

2020年6月、「コロナ支援として、寄付金付きのポロシャツを作りたい。シルクスクリーンで印刷してほしい」と大阪府豊中市社会福祉協議会より連絡をいただきました。新型コロナウイルスの影響で生活困窮に陥ったひとり親世帯や大学生、定時制高校生や子ども食堂等を支援するため、ポロシャツにプラスアルファの金額を乗せて販売し、その差額を食材支援に当てたいというお話でした。

胸に「コロナに負けるな！」という言葉が印刷し、豊中市へ送りました。ポロシャツは、豊中市の市長さんや多くの市民の方が購入してくれたとのこと。年配のご夫婦がお揃いで着ている写真も送っていただきました。

写真右は、豊中市社会福祉協議会の福祉推進室長・勝部麗子さん。支援が必要な人を地域ぐるみでサポートしていこうと活動されています。以前、土佐

町でお会いした時「家に引きこもっていた青年が、自分で育てたメダカを販売することになった。その人の得意なことや好きなことが自立のきっかけになれば」と熱心に話してくださいました。今ある仕組みに人を当てはめるのではなく、その人の得意なことや好きなことから新たな仕組みを考え、その人がその人らしく在り、やりがいや生きがいをもって生活できる社会にしたい。その考えに、編集部は新たな気づきをいただきました。





case  
3

## さめうらカヌーテラスTシャツ

2020.9

2020年9月19日にオープンしたさめうら湖畔の「さめうらカヌーテラス」。併設されている「さめうら荘レイクサイドホテル」と共に「湖の駅 さめうらレイクタウン」として、さめうら湖でのカヌーやSUPなど、水があるからこそその体験を提供していく施設です。

この施設のTシャツを作りました。

手描きの味わい深いロゴ、これはとさちょうものがたり編集部もたびたびお世話になっている“絵描き”下田昌克さんの手によるもの。

「土佐町の絵本」を製作する過程で、下田さんが土佐町を訪れた際にロゴの制作もお願いしました。

下田さんはものすごいスピードで一枚の絵を完成させる人。その下田さんが、このロゴの制作の際には、時間をかけて悩み、試行錯誤を繰り返し、納得のいくものができるまでに「むずかしいな〜」とやり直し続けることとなりました。

「これでどう？」と下田さんから言われた時には、やり直した下書きが何十枚も重ねられた後でした。



case  
5

## 土佐町ポロシャツ2021 あか牛

2021.4

毎春、「土佐町のポロシャツ」として企画制作しているこのシリーズ。背中に印刷する絵は土佐町とも縁の深い“絵描き”の下田昌克さんをお願いしています。

2021年のテーマはすばり“あか牛”！

今更言うまでもなく、土佐町はあか牛の生産で有名な町。その土佐町の一年に一度作るポロシャツとして、いつかは必ずあか牛をモチーフに、と数年前から考えていました。

そしてやってきた2021年はちょうど丑年。「今年やるしかないでしょ！」とあか牛をテーマにした絵を下田さんに依頼しました。

以前撮影した、高須の澤田清敏さんがあか牛と一緒に写っている写真。ご自宅の周りで、清敏さんがあか牛を散歩させていたところを撮影した写真です。これを下田さんに参考資料として送り、土佐町にいる本物のあか牛をモデルに絵を描いてもらいま

た。そして待つこと数週間。下田さんから届いた絵がページ右下の絵。まっすぐこちらを見ているあか牛の顔がドーンと描かれています。あか牛特有の柔和でつぶらな目が印象的な原画になりました。ちなみにこの写真のあか牛の名前は「いち子」です。





case  
10

## 大豊町ポロシャツ 2022

2022.4

普段から印刷作業を担ってくれている大豊町の障がい者支援施設ファースト。作業のある日は、大豊町から土佐町の作業場まで通って来てくれています。上の写真は、いつも作業に通ってくれている小笠原さん（左）と大尾剛さん（右）。とさちょうものがたりが企画した様々なポロシャツなどの印刷を、ファーストの利用者さんが作業することになって早くも3年以上が経ちました。皆さんの腕も相当上がっています。

ならば、大豊町の方々のために大豊町のポロシャツを作ってみては？

大豊町の方々が着る大豊町のポロシャツ、その製作を大豊町のファーストが担うことで、モノとお金と気持ちが町の中でぐるぐると回る良い循環が生まれるのではないのでしょうか？

22年春にそうして始まった初めての試み。背中に

印刷する図柄もファーストの利用者さんみんなで頭を悩ましながらいわいと楽しんで描きました。その後みんなで人気投票。結果、選ばれた一枚の絵をシルクスクリーンの版にしました。

胸のロゴはファーストの本部である南国市のウィール社の利用者さん。ちょうど大豊町が町政50周年だったことをモチーフにデザインしてくれました。ご注文を受ける窓口、商品と代金の受け渡し、チラシやポスターでの告知などはファーストの職員さんが担ってくれています。

印刷作業はもちろんファーストの利用者さん。作業代としての賃金がお支払いされることによって、大豊町の購入者から代金として渡されたお金が再び大豊町に戻ることになります。

準備は整い、22年の4月には実際に販売を開始。結果、春夏には特に多くのご注文をいただき、300枚を超



える販売となりました。

この一つの取り組みは、様々な人の各々の「得意」が合わさっています。絵の上手な人、印刷作業をコツコツとできる人、パソコンでデザインできる人、ご注文を管理できる人。ファーストの皆さんが持つそういった「得意」を少しずつ結集した結果、全体としてこうした取り組みが実現する。その結果生み出されたモノを、町の方々が喜んで購入してくれる。人と人が共に働くことの大きな意味がここにはありそうな気がしています。

もちろん最後の決め手としてそこにあるのは、町の方々の「ファーストを応援しようという気持ち」が大きな要素であるというまでもありません。

そしてもうひとつ大切なこと。それは来年も再来年もおそらく継続できる取り組みであるということ。毎年、冬が終わり春が近づいてくる時分には、「そろ

そろ絵を描こうか」という会話が交わされていそうです。こうして年々継続していくことで、毎年春には新しい図柄で作られる大豊町のポロシャツを、大豊町の方々が「今年は何んな絵？」と楽しみにしていただけるような、そんな取り組みをみんなで目指したいと考えています。





左から 前田和貴さん 中町小以登さん 山下恵子さん 仁井田弘子さん 仁井田かおりさん 三谷七香さん

case  
8

## いしはらキッチン ポロシャツ

2021.10

「いしはらキッチン」の皆さんからポロシャツのご注文を頂きました。

「いしはらキッチン」は、2020年の春に始動した土佐町石原地区のグループです。石原地区の食文化を守ってきたお母さんや県外から嫁いできた方、移住してきた方が「地元の美味しい食材を使って、こだわりの商品を作りたい!」「石原や土佐町、嶺北地域の魅力を伝えたい!」という思いを胸に活動しています。2021年6月から販売を開始した「山の辣油」が大人気。化学調味料は使わず、土佐町産のイタドリやみょうが、ねぎ、にんにく、玉ねぎがたっぷり。高知県産のカツオも加えた「食べるおかず辣油」です。餃子はもちろん、冬にはお鍋や湯豆腐に。おすすめは「卵かけごはんにちょこっとのせる。これ、最高!」とのこと。

2022年、「高知家うまいもの大賞2022」の高知家賞を受賞。現在、全国各地のスーパーや道の駅、セレ

クトショップ等で販売中です。石原地区の耕作放棄地でイタドリの栽培も開始し、自ら育てたイタドリを辣油の材料にしたいと奮闘中。ますますパワーアップしていく「いしはらキッチン」です。



case  
14

## 嶺北 Tシャツ @ モンベル

2022.7

お隣・本山町にあるモンベル・アウトドアヴィレッジでのシルクスクリーン体験イベント。お客様にシルクスクリーン印刷を体験して実際にTシャツを作っていただくイベントです。これはそのイベント1日のためだけに制作した「嶺北オリジナルTシャツ」です。

図柄は大豊町の障がい者支援施設ファーストのみなさんに描いてもらいました。「嶺北といえば?」「嶺北のイメージ」という注文に対して、たくさんの絵と文字を、みなさんでわいわい楽しみながら描いてくれました。できたものを一度ごちゃ混ぜにシャッフルして、分解して組み合わせ直してできたものが背中の図柄です。

開催は2022年7月23日。夏休みに入ったばかりのこの日はたくさんのお客様に、会場であるモンベル・アウトドアヴィレッジにご来場いただきました。まずはお好みのモンベルTシャツをご購入。すぐにその場でこの図柄を印刷するという体験。お客様に

印刷の方法を教えてくれる先生は、いつもとさちょうものがたりで印刷を担当している土佐町の障がい者支援施設どんぐりのメンバーさんたち。それから、土佐町小中学校にALTとして赴任しているエヴァンさんもお手伝いで来てくれました。上の写真は、完成したばかりの嶺北Tシャツを来たエヴァンさんの後ろ姿です。汗ばむような夏の日に参加者自身の手で印刷してTシャツを作る。夏の良い思い出になってたら良いですね。





case  
15

## まきのまきのレター Tシャツ

2022.8

「まきのまきのレター」は、高知が誇る植物学の祖・牧野富太郎博士の生涯をモチーフに、土佐和紙などを素材に製作された絵本です。

製作者は(株)ENYSiさん。この絵本プロジェクトの一環として、高知の自然や世界観を伝えるためのムービー制作を、とさちょうものがたり編集長の石川が依頼されたことがきっかけで、その後続くこのTシャツの制作へと続きます。

一連の絵本プロジェクトが完成後、因らずもNHKの朝ドラで牧野富太郎博士の生涯をモチーフにした「らんまん」の制作が発表されました。これを機に、引き続きTシャツの製作も頻りに依頼をいただける状態になっています。

印刷する図柄は2種類。牧野博士のシルエットのイラストのもの(写真左)と、「MAKINO」というアルファベットを印刷したもの(写真右)。牧野博士のシルエットは、絵本「まきのまきのレター」の巻

末にも使用されているものです。

アルファベットのMAKINOの文字は近くで見ただけだと、とても細やかな植物のデザインで構成されているのがわかります。ぜひ実物を手に取ってその精緻なデザインを見ていただきたいと思います。販売は、主に牧野植物園内ショップや高知葛屋書店にて。県外では国立博物館など、今後もどんどん増えていく予定だそうです。



case  
12

## こころばたけ ポロシャツ

2022.6

大豊町の標高600mの場所での有機農業を営む「こころばたけ」。中平拓海さん・紗也加さんご夫妻がトマトやピーマン、人参など年間約30種類ほどの野菜を作っています。

お二人は2020年から「こころばたけ」をスタート。屋号には「こころとはたけを耕す」という意味が込められているそうです。

2022年春、紗也加さんから編集部にご連絡がありました。6月の拓海さんの誕生日にポロシャツを作って渡したいとのこと。誕生日プレゼントとしてのご注文は初めて。これは何としても極秘に進めなくてはなりません！

電話やメールでやりとりしながら制作を開始。忙しい仕事の合間に小声で電話し、ポロシャツを受け取るため車で出かけていく紗也加さんは「何だか怪しまれていた(笑)」とのこと。苦勞の甲斐あって、完成したポロシャツを受け取った拓海さんはびっくり、そして「本当に喜んでくれた」そうです。ポロシャ

ツの色は全部で3つ。赤はトマト、オレンジは人参、緑は「野菜全般」をイメージして選んだそう。澄み渡る山の朝。色づき始めた山々のもと、朝露が光るお二人の人参畑で撮影しました。「こころばたけ」の野菜は、末広ショッピングセンター(土佐町・大豊町)やさくら市(本山町)、「こころばたけ」のネットショップ等で購入できます。





case  
4

## 大川村民生委員ジャケット

2021.3

土佐町の隣には、離島を除き、日本一人口が少ない村があります。その村の名は大川村。土佐町から大川村の中心部へは車で約30分。横にさめうらダムを見ながら、険しい山々の間を縫うように続く道の先に大川村があります。村内に流れる四国三郎と呼ばれる吉野川のもと、村の人たちは山の斜面を切り開き、家や田畑を作って暮らしています。現在の村の人口は359人（2022年10月末）。人口は少なくとも20~30代の若手議員が活躍、最近では子育て世代の移住者も増えているといえます。

その大川村の社会福祉協議会から「大川村の民生委員さんが着るジャケットを作りたい」とご注文をいただきました。社会福祉協議会の職員さんのお話では、以前から編集部が作ってきたポロシャツの存在を知っていて、いつか頼みたいと思っていただいていたそうです。背中には「大川村民生委員児童委員協議会」の文字、胸は民生委員・児童委員のマークを印

刷しました。撮影に伺った日は、民生委員さんの打ち合わせの日。一人暮らしの高齢者の方に届けるおせち料理についての相談をすることでした。毎年年末に集まっておせち料理を作り、一軒ずつ届けているそうです。地域の様子や地域で暮らす人のことをよく知っていて、周囲の人から信頼されている人だからこぞ担える仕事です。こういった人の存在が、その土地を支えているのだと感じます。



前列左から 和田未子 西原富美 山中正子 川上千代子  
後列左から 伊東昭和 和田茂子 福嶋道弘 川村文子（敬称略）



case  
16

## さめうらの郷湖畔マラソン 記念Tシャツ 2022.4

数年の間、コロナ禍により開催が見送られていた土佐町のマラソン大会「さめうらの郷 湖畔マラソン大会」。2022年11月は3年ぶりの開催となりました。この大会は、タイトル通りさめうらダム湖畔を回るマラソン大会。数年の中断を挟んで、過去2回記念Tシャツを製作販売させていただきました。2022年大会は3回目になります。

今回の背中に印刷したイラストは、そのマラソンコースにちなんで、さめうらダムを中心とした周辺地図を等高線で印刷しています。黒インクで印刷したものがそう。そのうえに、白インクでの大会タイトルを重ね、この大会の記念になるものとしての演出をしています。

背中のイラストにはぜひ、目を近づけて見てください。「和田」「宮古野」など土佐町のお馴染みの地名が小さく印刷されています。

またこうして地図で見ると、さめうらダム湖が大き

な龍のような形をしているのが、改めて確認できますね。ちょっとカッコいい。

大会当日には「毎回買ってるよ！」と伝えてくれるランナーさんもいて、マラソン大会記念Tシャツは少し認知されつつあるのかなと思います。今後はさめうらダム工事のため、マラソン大会は長期間の中断が入ることですが、また再開になった際には、さらにバージョンアップしたTシャツを製作してみなさんに喜んで頂きたいと目論んでいます。

